

## 第44回 口腔機能って何だろう？

＝「認知症の方」の食事「困りごと」と対処法について＝

(その19)

北九州在宅医療・介護塾  
塾長 久保 哲郎

先月に引き続いて「食事で困っていること」をテーマにして、その対応策についてご紹介します。

Q-4：食べ物が口の中からこぼれたり、料理を口に入れるときにこぼしたりします。

●認知機能が低下すると箸やスプーンの使い方が分からなくなってきます。そして、運動機能が低下すると、手と口との協調・連動運動が上手くいかなくなってしまいます。さらには、五感の感覚が低下するとその状態がひどくなってきます。箸が使えなくなった場合にはスプーンに替え、スプーンが使えなくなったら、介護用のスプーンに替えたり、介助して食べて戴いてはどうでしょうか？

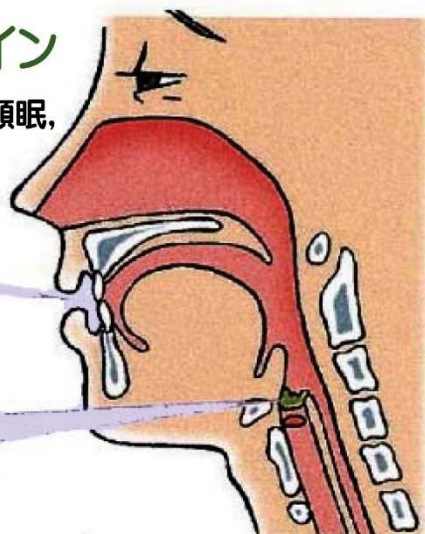
料理は、ポロポロと崩れないようにしたり、トロミを付けたり、ペースト状にしたり、また、一口量にも配慮して、ご本人が

食べやすいように工夫されてみてはどうでしょうか？

●口の中に食べ物が入っていることを認識していないのかもしれませんが、食べ物であることをしっかりと認識して戴かねばなりません。この対応策として以前ご紹介させて戴きましたが、例えば味にメリハリを付けたり、視覚に訴えるようなインパクトのある調理が必要です。また、まとまり安いようにするために、トロミを付けたり、水分を加えて”シットリ感”をだしてはどうでしょうか？また、口腔内の触覚、圧覚、温覚、冷覚、痛覚などの皮膚・粘膜感覚などが低下しているのかもしれませんが、そのような場合は、口腔ケアを行う場合に歯ブラシの毛先やアイス棒などを口唇、舌、頬、歯ぐきとうに軽くあてて刺激したり、手指で軽い圧でマッサージしてみてはどうでしょうか？

### 「誤嚥」を疑うサイン

- ・ 食事中の意識変動，傾眠，疲労，集中力低下
- ・ 食欲不振
- ・ 痰が多く膿性痰
- ・ 湿性嘔声
- ・ 咽頭部での飲食物などの貯留
- ・ ゴロゴロ，ゼロゼロ



- ・ 食事中・食後のむせ，咳
- ・ 食後の咳・痰の増加
- ・ 日中・夜間就眠中の咳

発症・肺炎？

(向井美穂、鎌倉やよい：摂食・嚥下障害ベストナーシング第2版、学研メテカル秀潤社)